

<様式2>

市町村及び河川の概要

1. 市町村の概要	
① 都道府県名	愛知県
② 市区町村名	岡崎市
③ 人口	379,918人（平成26年10月1日現在）
④ 面積	387.24 km ²
⑤ 市町村の特色	<p>岡崎市は、愛知県のほぼ中央、岡崎平野東部に位置する中核都市である。市内を矢作川、乙川が流れ水環境に恵まれている。</p> <p>江戸時代より岡崎城の城下町として整備され、近世には5万石の城下町、東海道の宿場町、矢作川の河港として栄え、歴史・文化に特色のある都市であり、西三河地方の教育・産業・文化・金融・交通の中心地として発展を続けている。</p> <p>また、徳川家康の生誕地でもあり、岡崎公園、大樹寺、伊賀八幡宮など、徳川氏関連の寺社・旧跡や県の無形民俗文化財に登録されている滝山寺の鬼祭など歴史・文化遺産が多くある。</p> <p>そして、化学・自動車・機械・繊維などの工業が発展し、地場産業には御影石の石材加工、花火、八丁味噌などがある。山間部ではスギ・ヒノキの林業や、茶・シイタケの栽培が行われている。</p> <p>自然も豊かであり、美合地区周辺の岡崎ゲンジボタル発生地は国の天然記念物に指定されており、乙川の支流である男川上流部には、不動の滝やまぼろしの滝などの景勝を有する<small>くらがり</small>闇苧溪谷がある。また、男川には観光用「やな」が設置されており、アユの手づかみ捕りが人気を博している。</p>
2. 市町村内の河川の概要	
① 主な河川	
<p>●矢作川（一級河川矢作川水系、流域面積（1,830 km²、1,426.2 km²））</p> <p>矢作川は、その源を中央アルプス南端の長野県下伊那郡大川入山（標高1,908m）に発し、飯田洞川・名倉川等の支川を合わせて愛知 岐阜県境の山岳地帯を貫流し、平野部で巴川、乙川を合わせて、その後、矢作古川を分派して三河湾に注ぐ、幹川流路延長 118km、流域面積 1,830 km²の一級河川である。</p>	
<p>●乙川（一級河川矢作川水系、流域面積（258 km²））</p> <p>乙川は、愛知県岡崎市と新城市の境に位置する巴山（標高 719m）に源を発し、山間部を</p>	



流下、岡崎市茅原沢で左支川男川と合流後、岡崎市の中心市街地を貫流して矢作川に合流する一級河川である。その流域面積は約 258 km²におよび、河川延長約 34km であり、支川は男川、鉢地川、山綱川、伊賀川などである。

●伊賀川（一級河川矢作川水系、流域面積（11.4 km²））

伊賀川は、岡崎市板屋町地内で乙川に合流する河川延長約 5.2km、川幅約 15～40m の河川である。河道は愛宕橋（乙川合流点から 1.8km）から小呂川合流点（乙川合流点から 3.7km）までは有堤河道、それ以外は堀込河道となっており、コンクリート護岸が整備されている。河道沿いには桜並木がみられ、背後には市街地が広がっている。

② 河川と市区町村との関わり

徳川家康の生誕地でもある岡崎は、岡崎城の城下町として整備され、三河の中枢として東海道沿線に岡崎宿、藤川宿の 2 宿が置かれ、宿場町としても栄えた。また、「五万石でも岡崎様は、お城下まで舟が着く」とうたわれているように、江戸時代には乙川を上って岡崎城下まで船が来るなど、矢作川と乙川の合流地点にある岡崎は水運の要衝であった。

現在は、乙川下流部では、乙川河川緑地が岡崎城や岡崎公園と一体となった河川緑地公園として整備され、都市部における市民の憩いの場として、散策・ジョギング等や、岡崎花火大会等のイベントが開催されている。また、乙川及び伊賀川の沿川には、桜並木があり花見で賑わっている。

③ これまで実施済みの関連施策

- ・一級河川矢作川水系乙川圏域河川整備計画（乙川、0.0km～約 34.0km、概ね 30 年）

対象区間は矢作川合流部から一級河川合流端であり、延長は約 34.0km である。乙川リバーフロント地区の対象区間である名古屋鉄道名古屋本線橋梁から吹矢橋までの乙川下流部では河川改修工事を概成し、概ね 5 年に 1 回程度発生すると予想される規模の降雨に対する安全度を確保している。

④ 市民の河川利活用状況

河川公園として整備されており、オープンスペースとして市民の憩いの場となっている。また、年間を通して様々なイベントが開催されており、大勢の市民に利用されている。

乙川河川敷利用イベント

- ・岡崎桜まつり
- ・家康行列
- ・家康公夏祭り
- ・岡崎花火大会
- ・岡崎秋の市民祭り
- ・よさこい祭り

④ 市民の河川利活用状況



岡崎桜まつり（乙川）



岡崎桜まつり（伊賀川）



家康行列（乙川河川敷）



夏祭りよさこい



岡崎花火大会-1



岡崎花火大会-2

水辺とまちづくりに関する基本方針

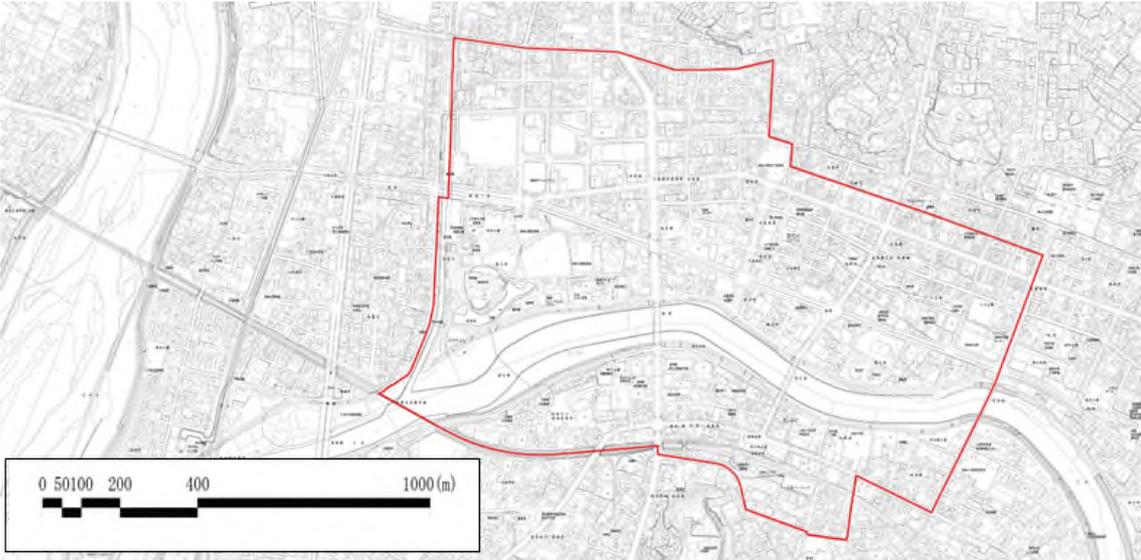
岡崎市におけるまちづくりの基本計画としては、「第6次岡崎市総合計画（平成21年3月）」があり、都市計画の基本方針として「岡崎市都市計画マスタープラン2010（平成22年2月）」、観光行政の指針としての「岡崎市観光基本計画（平成18年3月）」がある。

「第6次岡崎市総合計画」では、「人・水・緑が輝く活気に満ちた美しい都市岡崎」をテーマとして、矢作川、乙川に代表される豊かな水環境を市の基本的な魅力として位置づけている。また、「岡崎市都市計画マスタープラン2010」では、中央地域のまちづくり構想として、『西三河地域の広域拠点にふさわしい都心を形成する』、『中心地域にふさわしい秩序ある良好な市街地を形成する』、『都市と水辺等の自然が融和した潤いのある地域環境を創造する』という3つの目標を掲げ、水と歴史性豊かな美しい景観の創造や、歩いて楽しめるまちなか空間づくりの方針が打ち出されている。観光分野では「岡崎市観光基本計画」にて「まちを誇り 人が楽しむ 新・おかざき再発見」を基本理念としており、全市民が一体となって観光まちづくりをすすめていくことなどが謳われている。

岡崎市の中心の市街地を東西に流れる一級河川乙川周辺は、公園や各種の観光資源、商店等が集まる場所であり、かつては西三河の中心と言われる程に栄えた地域であった。しかし、時代の流れと共に、商店街の役割や観光資源の相対的な価値が変化するにつれ、街は縮小していき、この地域を訪れる人も少なくなっている。中心市街地では全国でも珍しいと言われるほどの広大なスケールをもつ乙川から岡崎城にかけての清流と豊かな水辺空間は、岡崎市の象徴であり、市民が誇りとする貴重な財産である。現在の乙川河川敷は、極めてシンプルに草地で構成されているが、この広大な空間を、より市民が楽しみ、憩える場所として活用することは、過去40～50年にわたり長らく議論されており、市民生活の向上のみならず、岡崎市の魅力向上の面でも必須であると考えられている。乙川リバーフロント地区全体としては、市民や観光客がゆっくりと川の流れを楽しんだり、休憩をしたり、安心して散策できる環境が充分とは言えない。特に外部の専門家からは、市民はもとより岡崎市には来訪客が楽しめ、再び訪れたいと思うような観光ホスピタリティの改善が必要との指摘がある。乙川堤防道路の現状は、岡崎城付近から明代橋に至る地域においては、一部を除き歩行者と車が混在し、夜間は照明もなく、歩行者が安心して歩ける状態となっていない。

平成25年度より、有識者や地域住民、民間事業者、観光の専門家が加わった「乙川リバーフロント部会」を設置し、課題解決に向けた整備方針の作成作業を行ってきた。また、並行して行われた「乙川リバーフロントアイデアコンクール」によって概ね2,500通の市民の応募を参考にし、それらの検討をもとに、「乙川リバーフロント地区整備基本方針」を策定した。

現在、岡崎市では、岡崎城や大樹寺など、市内各地の貴重な歴史・文化資産を活かした観光産業の振興を、市の経済を支えていく新しい柱と位置付けており、市外からの観光客を迎える玄関口にあたる乙川リバーフロント地区の整備を、重要かつ喫緊の課題と認識し、官民の緊密な連携の下、基本方針に基づきスピード感をもって乙川リバーフロント地区の整備に取り組むこととしている。

<p>1. 河川名</p>		
<p>①一級河川矢作川水系乙川</p>		
<p>2. 施策の実施範囲</p>		
<p>① 乙川リバーフロント地区活用区域 岡崎市康生町他 137.6ha</p> 		
<p>3. 施策概要</p>		
<p>乙川リバーフロント地区計画において行われる事業及びイベントについて地域の活性化を推進するため占用許可に配慮するものである。また、オープンカフェなどの事業については、河川敷地占用許可準則の特別措置による河川占用の規制緩和を活用し水辺の賑わいを創出するものである。</p>		
<p>【参考イメージ図】</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光船事業 ・ 水上アクティビティ体験 ・ オープンカフェ ・ ランニング ・ ドッグラン ・ 泰平の祈りプロジェクト 		
	<p>オープンカフェ</p>	<p>水上アクティビティ体験</p>
		
<p>泰平の祈りプロジェクト</p>	<p>ドッグラン</p>	<p>観光船事業</p>

支援整備内容の概要（ハード施策）

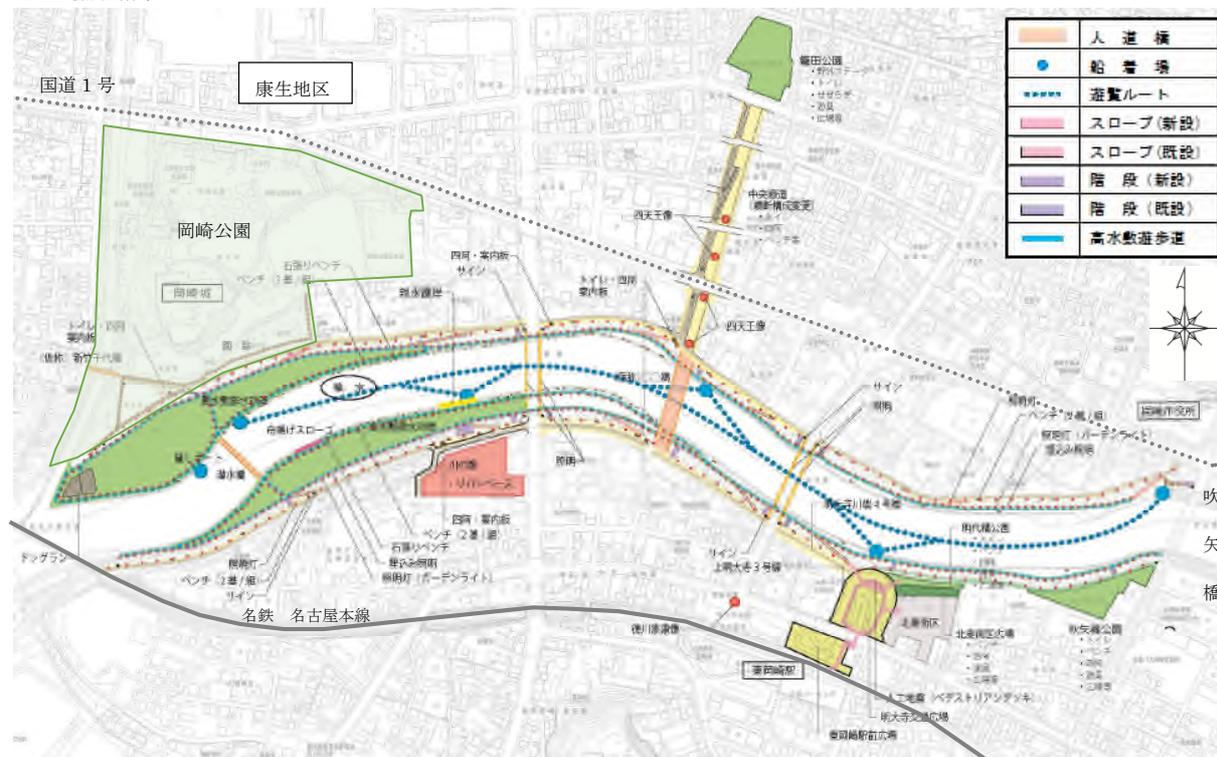
1. 河川名
一級河川矢作川水系 乙川
2. 整備範囲
乙川リバーフロント地区
3. 整備内容
<p>乙川リバーフロント地区整備計画</p> <p>○かわまちづくり事業（県施工）</p> <p>堤防天端から高水敷に下りるスロープ7箇所、階段6箇所（いずれも既設）を改修し、河川利用が促進されるよう、緩勾配化を図る。</p> <p>○都市再生整備計画事業（市施工）</p> <p>岡崎市の施工により整備（いずれも新設）する施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スロープ：6箇所 ・階段：8箇所 ・船揚げスロープ：1箇所 ・親水広場（階段護岸）：1箇所 ・河川敷遊歩道：L=4.2km、W=4m ・乙川プロムナード（堤防天端舗装）：約16,400㎡（車道）、約2,500㎡（歩道）
(参考) 位置図

1. 整備内容名

乙川リバーフロント地区かわまちづくり

2. 整備概要

○整備箇所



○整備の概要 (別添参考図：A3判を参照)

- ・ スロープ (堤防天端から高水敷へ下りる)
- ・ 階段 (同上)
- ・ 船揚げスロープ
- ・ 親水広場 (階段護岸)
- ・ 高水敷整備 (排水対策)
- ・ 河川敷遊歩道
- ・ 乙川プロムナード (堤防天端舗装)

○整備イメージ

船揚げスロープ



親水広場（階段護岸）



乙川プロムナード



河川敷遊歩道



階段（高水部）



3. 整備の必要性、有効性

整備予定箇所は、名鉄東岡崎駅にほど近い、岡崎市の中心市街地を流れる矢作川水系乙川である。この地区では乙川、岡崎公園及び都市空間の景観整備や観光拠点としての可能性を引き出すこと、水辺空間の活用、交通インフラの改善、まちづくり・街のリノベーションの促進、が課題となっており、都市空間と水辺空間を一体的に整備し、回遊性を確保し、観光拠点となる賑わいの場を創出することが強く求められており、「かわまちづくり事業」を実施する必要がある。

また、中心市街地は郊外への大型商業施設の進出の影響等で空洞化が進んでおり、中心市街地の活性化が急務となっている。このため、良好な観光資源である乙川の河川空間を観光アクセスとしても活用することで、東岡崎駅～岡崎城～岡崎市街地の観光資源を結び付け、岡崎市が進めるまちづくり事業との事業進捗及び効果発現の面からも相乗効果が期待できる。

4. 整備の実現方策

- 乙川かわまちづくり事業（H28～H31）（愛知県）

かわまちづくり事業にて堤防天端から下りるスロープ及び階段（既設）の改修を実施し、河川敷の利用促進を図る。

- 都市再生整備計画事業（H27～H31）（岡崎市）

岡崎市により「乙川リバーフロント地区整備計画」を進めるため、都市再生整備計画事業でスロープ、階段、親水護岸、遊歩道、船着場、人道橋等を整備し、上記かわまちづくり事業と合わせ、一体的な整備効果を発現することが可能となる。

○整備工程

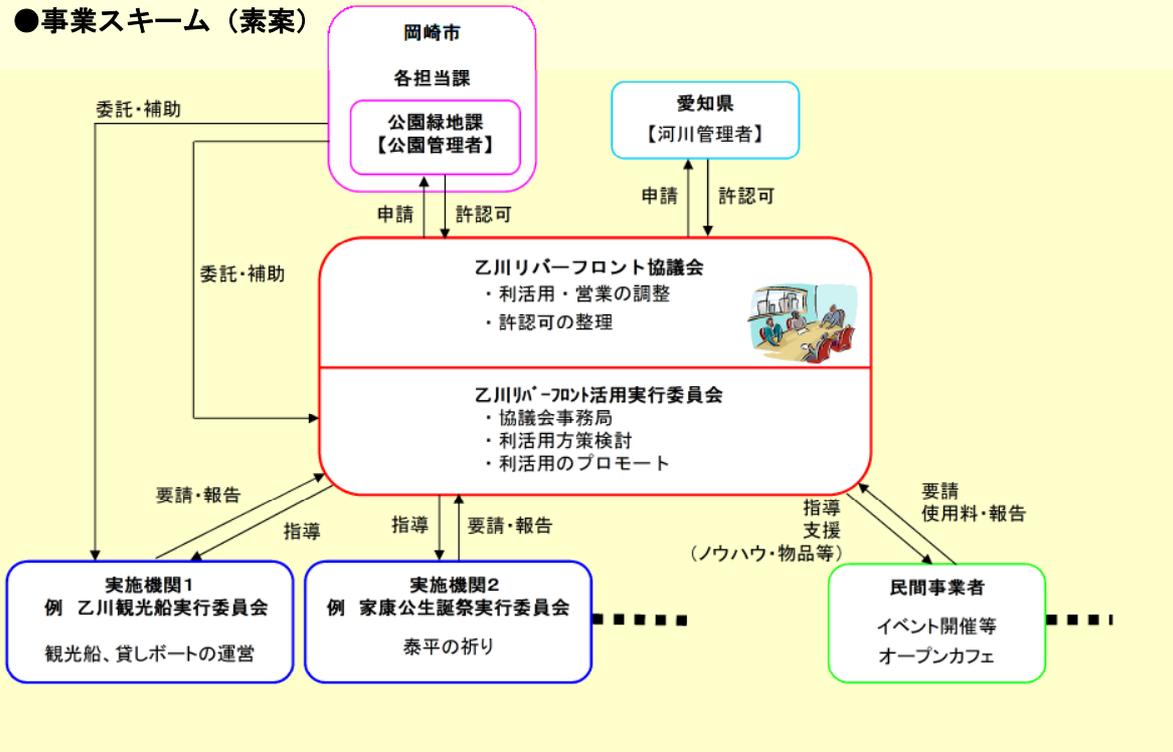
	整備内容	箇所数	H27	H28	H29	H30	H31
かわまちづくり事業	スロープ(7)、階段(6)の改修	13箇所		■	■	■	■
都市再生整備計画事業	スロープ(6)、階段(8)の新設	14箇所		■	■	■	■
都市再生整備計画事業	親水広場（階段護岸）	1箇所	■				
都市再生整備計画事業	高水敷遊歩道	4,200m		■	■	■	■
都市再生整備計画事業	乙川プロムナード（堤防天端景観舗装）	18,700㎡	■	■	■	■	■
都市再生整備計画事業	船着場	5箇所	■				
都市再生整備計画事業	船揚げスロープ	1箇所	■				
都市再生整備計画事業	ボート乗り場	1箇所	■				
都市再生整備計画事業	潜水橋拡幅	1箇所		■	■		
都市再生整備計画事業	ドッグラン	1箇所	■				
都市再生整備計画事業	高水敷整備（排水対策）	36,000㎡		■	■		
都市再生整備計画事業	乙川人道橋（仮称）	1箇所	■	■	■	■	
都市再生整備計画事業	中央緑道再整備	600m		■	■	■	■
都市再生整備計画事業	四阿5・トイレ2・案内板5・ベンチ100	112箇所	■	■	■	■	■
都市再生整備計画事業	岡崎公園園路整備	500m	■	■	■		
都市地域交通戦略事業	東岡崎駅周辺地区整備	5,400㎡		■	■	■	■

5. 推進体制

- 地域の意向を計画に反映するため、商工会議所、民間事業者や地元NPO、漁協、学識者、行政などで構成する「乙川リバーフロント協議会」を設置し、当協議会を中心として地域と一体となった体制で推進する。

- 意思決定機関としての協議会に対し、事業推進機関として乙川リバーフロント活用実行委員会を組織し、各ソフト事業やイベントに対して柔軟に対応する。

●事業スキーム（素案）



6. 有効利用及び維持管理

① 有効利用に関する計画

- ・河川敷及び人道橋にて、四季を通じて様々なイベントを実施し、当該地区で「常に何か面白いことが起きている」という市民及び来訪者の感覚を醸成し、日常的な利用者を増加させる。
- ・プロムナード、船着場、遊歩道を整備することで、東岡崎駅～岡崎公園～康生地区の回遊性を確保し、水辺、歴史、にぎわいのイメージを来訪者に強くアピールする。
- ・人道橋は地元木材を用いて木装化を行い、定期的に張替えを行うことで、乙川の上流域と下流域の交流を促し、地域の活性化につなげる。

② 維持管理計画

- ・施設の維持管理については、施設管理者（県と市）が行う。
- ・日常的な施設管理、清掃等については、市及び乙川リバーフロント活用実行委員会、地元住民が実施する。

7. 特徴

- ・乙川リバーフロント地区は、一級水系矢作川とその支川である乙川という豊かな水環境に恵まれ、古くから城下町、宿場町として発展してきた経緯がある。しかし、近年の大型店の郊外移転や撤退などにより、本来持っていた活力やにぎわいを失っているのが現状である。
- ・本計画の市街地空間と連携した水辺整備により、優れた水辺空間と商業空間との回遊性が確保され、西三河の中心地として岡崎市民が誇りを持ち、「観光産業都市 岡崎」の創造の基盤となる地域の活性化につながる。

その他特筆すべき事項

1. その他特筆すべき事項

乙川リバーフロント地区整備計画は、市長自ら市民対話集会や地元説明会などを通じて、「夢ある次の新しい岡崎」の実現に向け説明をしており、岡崎独自の歴史的文化遺産と乙川の水辺空間を活かした「観光産業都市岡崎」としてのまちづくりを官民一体で目指している。

■乙川リバーフロント推進部会

H25年度に乙川リバーフロント地区に関わりの深い方々や観光の専門家も加わった乙川リバーフロント部会を設置し、乙川リバーフロント地区について議論を深めてきた。H26年度からは、推進部会として、乙川リバーフロント地区の整備計画について、より実現に向けた検討を進めている。



■乙川リバーフロントアイデアコンクール

乙川リバーフロント部会の検討と並行して「乙川リバーフロント アイデアコンクール」を行い、2,475作品の応募をいただき整備計画の参考としている。



■アンケート調査

地域住民の意見を収集するため、乙川リバーフロント地区整備計画に関してアンケート調査を実施した。

**岡崎市乙川・岡崎城周辺地区の総合的な整備
に関わる市民アンケート結果報告書**

1. 調査の目的
本調査は、「旧岡崎藩を推進本部」で開催された活性化推進会議における協議を踏まえて作成した「乙川リバーフロント地区整備計画」をもちに、岡崎市民を中心とする岡崎市乙川・岡崎城周辺地区の市民等に、当該地区の整備のあり方に関して意見を収集し、今後の検討に役立てることを目的とする。

2. 調査方法
乙川・岡崎城周辺地区の市民等に、調査への参加を呼びかけ、乙川リバーフロント地区整備計画の概要について説明した上で、質問票に市民等の意見を記載していただいた。

1) 調査期間と調査時間
平成28年9月8日～4月7日の11日間（4月1日からは「臨時の桜まつり」開催期間中）
調査時間は、午前9時～午後5時とした。なお、雨天の場合は状況を見て中止とした。

3) 配布資料
アンケート票記入に先立ち、整備計画案に添った、整備計画案に添った整備計画案を行うための「乙川リバーフロント地区整備計画」の概要を説明した。乙川周辺を歩いた歩道、乙川リバーフロントアイデアコンクール応募イラスト、アンケート票の原案を提示した。



4) 質問票
別紙参照

5) 調査対象と目標サンプル数
岡崎市民会館周辺地区を基本とするが、目下一戸建てでも調査への参加を希望する人は割合を考慮し、目標サンプル数は岡崎市民で概ね1,000名以上とし、調査期間中に可能な限り多くの回答を得ることとした。

1

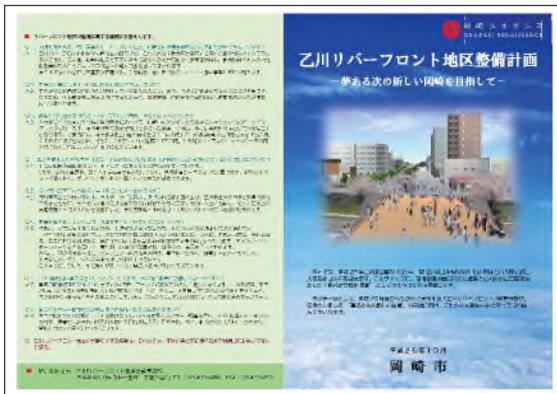
6) 調査場所
乙川の高水敷、乙川親水園、竹千代元、奉教者清隈ととした。




2

■パンフレットの作成

乙川リバーフロント地区整備計画の内容を市民に効果的に伝えるため、パンフレットを作成した。パンフレットは4頁構成として、見開き部分に計画平面図及び主な整備イメージを配し、裏表紙には計画に関するQ&Aを掲載することとした。



乙川リバーフロント地区整備計画
夢ある次の新しい岡崎を目指して

岡崎市



乙川リバーフロント地区整備計画の計画平面図及び主な整備イメージを示す図表。

<参考1> 位置図、写真等



<参考2>

市町村内で実施された同種の河川整備事業

1. 河川名：矢作川水系矢作川
2. 整備範囲：右岸 20.1km(渡橋)～25.1km(日名橋)地点 総延長 5.0km
3. 整備概要：

■事業名：

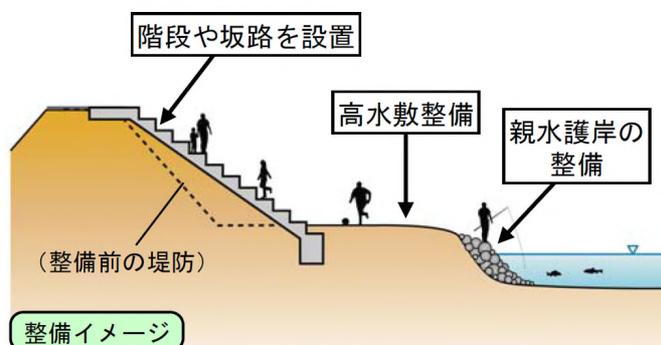
矢作川総合水系環境整備事業

■整備年度：平成 18～20 年度

■整備事業費：9.4 億円

■事業内容：坂路整備(2箇所)、高水敷整備(1,000m)、階段整備(240m)、親水護岸整備(700m)、河川緑地公園(岡崎市)

■まちや地域の関係者との関わり：岡崎市によるワークショップにより、学区内の大門小学校の児童や市民の意見を取り入れながら事業を進めている。



4. 利活用及び維持管理

■利活用状況(地域関係者との役割分担を含む)：

オープンスペースとなり、散策やレクリエーションの場として利用されている。大門小学校の児童がタイル画を制作・設置するなど、地域連携の場となっている。また、水辺に安全に近づけることで、子供から大人まで、川とのふれあいの場となり、環境学習の場としても利用されている。



■維持管理状況(地域関係者との役割分担を含む)：

河川緑地公園は岡崎市、それ以外の区域については国土交通省により、定期的な維持管理(草刈り等)が行われている。

5. 特徴

■市町村や地域における当該事業に関して行った工夫

周辺に学校・住宅地を控えており、親水の必要性が高いエリアであり、地域住民にも非常に親しみのあるふれあいの場となって、良好な河川景観を提供している。岡崎市においては、水辺プラザ事業を実施し、大門河川緑地と大門公園、堤下公園を一体的に整備している。

6. その他

■現況写真

大門水辺整備

<坂路、高水敷、階段整備>



<親水護岸整備>

